



竹灰釉辰砂流押文壺

生誕100年

# 阿部祐工回顧展

～西条が生んだ陶芸家の全貌～

主催：公益財団法人 愛媛民藝館

後援：愛媛県・愛媛県教育委員会・砥部町・砥部町教育委員会・愛媛新聞社・朝日新聞松山総局・読売新聞松山支局  
毎日新聞松山支局・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・ハートネットワーク  
FM愛媛・西条市・西条市教育委員会

令和6年9月14日(土)～12月15日(日)

休館日/月曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)、祝日の翌日

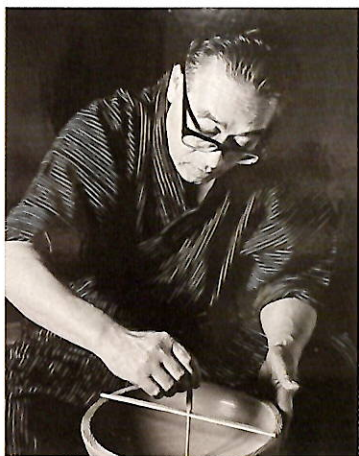
開館時間：9:00～17:00(入場は16:30まで)

公益財団法人

## 愛媛民藝館

EHIME Folk Crafts Museum

生誕 100 年 阿部祐工回顧展 ～西条が生んだ陶芸家の全貌～



大正 13 年父の赴任先別子銅山東平に生まれた阿部祐工（1924-2014）は幼少年期を西条市で過ごし、昭和 16 年旧制西条中学（現西条高校）を卒業して日大芸術専門部工作美術科に進みます。学徒出陣から復員後は、益子の濱田庄司に戦後初めての弟子として師事しました。その後地元西条に戻り、朔日市の自宅脇に筑窯して陶芸家としての人生をスタートし、砥部祐工社では現在の砥部焼

のスタイルの元となる民藝磁器の様式を確立しました。また、阿部祐工の働きかけによって柳宗悦やバーナード・リーチ、濱田庄司、富本憲吉らが砥部を訪れて作品指導を行い、産地としての活性化を促すこととなります。その後備前での研究、九州民芸村、祐工窯と制作の場を変えながら生涯民藝陶磁器の制作に携わりました。一方、昭和 25 年からは美術界をリードする国展に連続して出品し、昭和 54 年には国画会会員に推挙されるなどその地歩を固め、また全国各地で個展を開催し作品を発表し続けました。阿部祐工の作品は一貫して「暮らしの中の器」であり、その造形感覚と釉薬や加飾の多様さには目を見張るものがあります。この展覧会は生誕 100 年、没後 10 年を記念するもので、館蔵作品と西条市周辺で所蔵されている作品に、祐工窯を継承している阿部眞士氏の貴重なコレクションを加え、西条が生んだ陶芸家阿部祐工の作陶の全貌を展覧します。

阿部眞士作陶展

11/1(金)～11/24(日)



国画会工芸部会員で日本民藝館展審査員でもある祐工窯阿部眞士氏の作品を展示・販売。白磁を中心に、染付・色絵・辰砂・青磁・瑠璃など、使い手の事を第一に考えた日々の生活に取り入れやすい食器から大作までを幅広くご覧いただけます。

オープニング記念トーク「阿部祐工を語る」 9/14(土)



2024年9月14日(土)  
13:30～15:00  
会場：五百亀記念館  
2階市民ギャラリー  
定員：50名  
※お申し込みは Instagram の DM かお電話をお願いします。

阿部眞士氏と砥部焼ひろき窯多川浩生氏とのトークショー。共に阿部祐工の弟子として同じ時期を祐工窯で過ごした立場で師阿部祐工の陶歴を振り返ります。

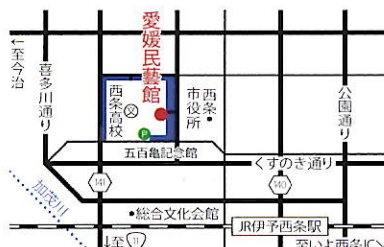


1 壺釉瑠璃刷毛目鐺手壺 2 黒釉花絵筒描皿 3 飴釉線刻技絵角平鉢 4 飴釉櫛目向付  
5 柿釉技法文壺（濱田庄司） 6 糠釉環壺 7 ガレナ釉麦酒春（バーナード・リーチ）  
8 染付葡萄文皿（富本憲吉）

アクセス

- ◆松山自動車道「いよ西条インター」より車で約 15 分
- ◆JR 予讃線「伊予西条駅」より車で約 5 分
- ◆せとうちバス「西条市役所前」下車徒歩約 3 分
- ◆駐車場 15 台（五百亀記念館の駐車場もご利用いただけます）

〒793-0023 愛媛県西条市明屋敷 238-8 TEL/FAX 0897-56-2110  
開館時間：9：00～17：00（入館は 16：30 まで）  
休館日：月曜日（祝日の場合は開館し翌日休館）、祝日の翌日  
観覧料：大人 500 円、中学生 100 円、小学生 50 円  
団体割引 30 名様以上半額、スポンサー会員と同伴者・民芸協会会員・友の会会員と同伴者 1 名は無料



公益財団法人  
**愛媛民藝館**  
EHIME Fork Crafts Museum



HP:chimemingeikan.jp  
Instagram:ehime\_mingeikan